

銀色の道

夢叶うまで挑戦

学志舎 塾長 山田勝登

みなさんこんにちは。寒い日が続いていますね。本当に冬・冬・冬って感じです。えっ？塾長、そんなの当たり前や〜！って言われそうですが。今は暖房器具があふれていますので、どこの建物の中も**あったか〜い**のですが、これがなんとなく私にとっての「冬」が少しずつ遠ざかっていくような気がするのです。

小さい頃、ド田舎に住んでいた私にとっての「冬」は、朝起きて外の水道（井戸水）まで歯磨きと顔を洗いに行く。裸足で板の間を歩くときの足の裏の凍るような冷たさ。外の温度計に目をやると、この時期1〜4度。じつは気温より井戸水の方が暖かいのです。その水で顔を洗って歯磨き。

夜がまた「冬」を強烈に実感させてくれるのです。冷たい部屋の布団にはいると、もう丸まっていないと寒くて仕方がありません。布団の中でガタガタ震えていると、5分、6分と時間がたつにつれ、自分の体温が布団に伝わりじわりじわりと暖かくなっていく。そして丸まっていた体を少しずつ伸ばしていく。いっぺんに伸ばすと、足先が**冷たい！**

Vol.8 のトピックス

- ◇教室便り ・ 定期試験・冬期講習
・ 保護者懇談会・冬期講習会・学力テスト
- ◇親力診断テスト
- ◇塾長の四方山話 ・ ラグビー・チラシ
・ 初詣・立場逆転！先生への問題
・ 研修会・幻の1 ページ目
- ◇編集後記

学校から帰るとランドセルを放って、暗くなるまで外で遊んでいる。寒いので、みんな冬の朝の雀のように着ぶくれ状態。それで走り回って遊ぶと、汗びっしょり。しばらくするとその汗で濡れた肌着が**冷た〜く**なってくる。寒くて仕方がないのでまた走り回る。まわりにはハナをたらしめているやつがいる。



こんな状態で遊びまわっているのも、手足にしもやけ、耳にもしもやけ。帰って風呂に入るとそこがジンジン熱い。

とにかく寒いのが当たり前。今では寝る前に部屋を暖かくしているので、布団がぬくぬくです。そうしないと事務長は**凍え死んでしま**うとかで…。時代が違えばそれまでなんでしょうけどね。

しかし、受験生諸君は風邪を引かないように気をつけてください。

それでは Vol. 8 の発進です！

教室便り

①定期試験

気合十分で望んだはずの期末・中間(長良中)試験。残念ながら目標は達成できませんでした。言い訳ではありませんが、前回至誠館の生徒は76%のアップ率でしたから、その反動が出ることは予想していました。

前回、至誠館で長良中の3年生の5人中4人がアップしたと書きましたが、実は一人漏れていたのがMさん。今回はしっかりリベンジしました、意地を見せてくれました。

5科目アップ!

育真館ではT君がまたまたやってくれました。

祝 学年第1位(473点)

伊奈波中 1年でトップとなりました。



彼はまだまだ高得点を狙うと熱く語っていましたね!!! ぜひとも何回でも学志舎の高得点記録を塗り替えて欲しいものです。

さて1, 2年生諸君、定期試験まであと3週間です。今回もやります「チャレンジ76」皆で頑張って、ポイントをしっかり稼いで下さい。

②保護者懇談会

12月の懇談会は、出席率が私の記憶では過去最高ではなかったかと思います。至誠館では12月4日の懇談日に都合が悪いお母さん方から、次の週のほとんど毎日塾が始まる前、塾が終わったあとに懇談のアポイントがはいりました。育真館も次の週までアポイントがはいりました。結果、

育真館の出席率 93%

至誠館の出席率 87%

なんともうれしい限りです。自由出席の懇談会に、これだけの保護者の方が来てくれるなんて。大切なお子様のことから、当たり前と言ったら当たり前のことなんでしょうけど。

今年、塾生証(カード革命というシステム)を導入してから、メールでいろいろ意見を送ってくれるお母さん方が増えましたが、それでもまだまだ全体からすると一部です。

今回の懇談会で、クレームを2件いただきました。至誠館での土日のことでした。私がいないうち、一部の生徒が騒がしかったことです。これは当日私が夕方教室に出て行ったときに、生徒からも言われました。指摘された生徒には、その夜に注意の電話を入れました。中学生になって、静かに自習ができない生徒がいたということに少し寂しい気がしました。しかし結局は私の指導不足です。すみませんでした。

ご指摘いただいたお二人のお母さんには本当にありがとうございました。良くないことは言いにくいと思います。塾を良くするためには良いことではなく、悪いことを(あまりあって

はいけないことですが) 指摘いただけることは、ありがたいことだと思っています。

しばらく懇談会の席でお父さんと話をしていませんね。いつ以来でしょうか。かつて懇談会で一番気楽に話をしていたのが、実は学志舎が開校した当初から通ってくれたM君のお父さんでした。最初の懇談会こそお母さんが来ましたが、2回目からはずっとお父さん。

M君に続き、妹二人が通ってくれました。私がいう「瞬発力」にいたく共鳴してくれたお父さんでした。所謂「伸びきったバネは作らない」ということです。



子供の構成も当時一緒だったので(もちろん私の方が全体に年下)、懇談はいつも最初の5分で終わり、あとはほとんど世間話。私は娘に関してよく聞きました。お父さんも、いつまでお風呂に一緒に入っていたとか、中学生になっても娘と仲良しで、「お父さん～」って抱きついてくるとか…。色々教えてくれました。いつぞや、赤い顔をして「先生～、今日は酔ってますよ～」と懇談会の直前まで、家族とレストランで食事をして、ワインを飲んでいたとか。そして「先生、今度一緒に飲みましょう！」

M君、高校2年まで通塾してくれました。そしてお父さんの母校、それも同じ学部を卒業しました。

話は変わって、懇談会の席で成績が下がった生徒のお母さんから「先生、**すみません**。うちの子勉強しないもので。」という言葉をよく聞きます。月謝をいただいて、成績が下がっては、こちらこそ「**すみません**」と思っているのですが…。

これは社交辞令の言葉だとずっと思っていました。しかし、本心から言ってくくださる方もいるんですね。 **なぜそう思うのかって？**

それは、私が実際にそう思って、そう言ったからです。

実はうちの子供たち、前回の教師紹介で登場した山口先生と川村先生に教えてもらっています。長男は中3の受験生です。3年生になっても自覚が全くなく、ほんとにけ猿のごとくP S II & 任天堂のゲーム三昧。成績は順調に下降線。詳しくは書きませんが、私と事務長が夜の仕事をしているために、小学生のときから子供の勉強を見てやれなかったせいもあるのですが、勉強ぐせがついてないというか、勉強に関して努力ができない。

山口先生と川村先生は、二人でよく話し合っではいろいろと彼に指導してくれます。ところが返事だけは立派で、行動が伴わない息子。

12月の下旬のことでした。二人から私と事務長に懇談会をするから、塾が終わったあと時間を空けて欲しいと言われたのです。そして育真館で先生二人と私たち夫婦、息子の5者懇。

山口先生から息子に鋭い質問。私たちはなんと答えるのか固唾を呑んで見守っていました。しかし何を考えているのか、じっと下を見つめ、言葉が出ない息子。

1分、2分・・・8分。重苦しい沈黙が続く。

「親として何か言わなければいけないのだろうか。」そう思って口を出そうとした瞬間、川村先生から息子に助け舟。

彼らの言葉一つ一つが真剣でした。彼らの息子に対する真摯な想いが、私たち夫婦の心の奥底まで染み込んできました。

懇談の後、事務長の口から「本当にごめんなさい。山口先生も川村先生も一生懸命やってくれてるのに、うちの子…。」

ふと見ると彼女の目が赤くなって、涙がこぼれる寸前。私「本当に悪いね。親の教育が悪いのか、君らが必死になってやってくれてるのに、笛吹けど…ってやつで。」



もちろん二人にはちゃんと月謝を払っています。お金をはらって、なおかつ彼らに対して本当に「悪いな」と夫婦共々思ったのです。

しかし、それは彼らが一生懸命やってくれていることが私たちには分かっているからです。彼らの熱意が私たち十分に伝わっているからです。きちんと指導してもらって、それに応えられない息子を見るにつけ「情けない」という気持ちで「すみません」の心境になってしまったのです。

「親の教育が悪い」実はこれは息子と事務長が、先月ケンカしたときに、息子が吐いた捨て台詞と同じなんです。「親の教育が悪いから、俺がこうなった」そばで聞いていた私は、去年の夏までならばカッとなって「それが親に向かって言う言葉か！」と手を出していたでしょう。

私が皆さんにプレゼントした「ツキを呼ぶ魔法の言葉」の小冊子を読んだ方はもうお分かりでしょう、私がそのとき心の中でなんて思ったのか。

息子が2階に上がった後、私は考えました。私は息子に「人様の迷惑になることをしたときには怒るし、体をはってでも分からせる。しかし勉強しないことについては怒らない。自分でわからないとダメだ」と言ってありました。

小学校時代からゲームは1時間と決めてあったにもかかわらず、勉強もせずにはほととけば何時間でもやる息子。中学に入っても変わりません。仕事が終わって家に帰って事務長から「お宅の息子さん、ず〜っとゲームやってるよ。何とか言ってよ！」と何度言われたか分かりません。私は自分がそうだったように、この時期の子供が素直に親の言うことを聞くわけがないという思いで、「サルになるなよ」と言うくらいでした。

しかし息子の「親の教育が悪い」の言葉でつくづく考えさせられました。「勉強をしないこと」と「ゲームをすること」とは別物なんですよ。決められたゲーム時間を守らないことに関して、もっと真剣になるべきだった。息子の目の前でゲーム機を壊すことくらいしなないしけなかった。それで「僕のを勝手に壊し

た」と言うならば、新しいプレステを買ってきて、時間を守らないたびに何度でも壊すべきだったのではないか。そして息子が分かってくれるまで、ゲーム機代を節約するべく、私達二人の食事だけ、おかずは沢庵か梅干だけにする。そのくらいのことをしないとイケなかったのではないか。いつかは分かるだろうという甘い思いばかりで、息子に本気で向き合っていたのだろうか…。そういう思いが頭の中でぐるぐると渦巻いていました。



しかし、遅まきながらもそういう事を考えさせてくれた息子に…そう、感謝…です。

そして手前味噌ではありませんが、山口、川村両先生をはじめ、うちの教師の実直なその熱い想いを再認識しました。

私は教師ミーティングでよく言います。「小学生はまだ柔らかくていいが、中学生でやらないやつは、10数年間かかってガンガンに固まってきた変な殻を持っている。長年かかってできた人間の性格を、1回や2回の話で変えようなんて、1ヶ月や2ヶ月そこらで変えようなんて、思い上がった話だ。だからしつこいくらい何回も繰り返して言い続けなければいけない。だから本気で言い続けなければいけない」と。

1月30日、1月の月間宿題が合格できなくて、居残り補習となった中学生が至誠館でなんと6人。その中にかつての居残り常連者「Nさん」の姿はありませんでした。2ヶ月に一回の割合で、生徒面談をしています、その日はちょうどNさんと面談をしました。「しっかり月間宿題やってきつたな。先生めっちゃうれしいわ。」「そうやろ。私、最近居残り補習ないやろ。居残りにならんようがんばっとるもん！」

彼女は4月に入塾したのですが、初めは何をやっても、何を言っても彼女の口からは**無理、無理、無理**のオンパレード。はなからやろうとしないのです。6月には、今年度の居残り時間の栄えある第3位—午前2時20分を記録しました。(ちなみに当塾でのワースト記録は本年度5月の午前3時20分) 面談のたびに、また普段の会話の中で何度も「うちの塾では、無理という言葉はないぞ。無理といった瞬間、それはやらないという意思表示になる。全力でやってみて、できなかったとき初めてそれが無理だということなんだ。やる前から無理は絶対ない！」と。



授業中も担当の高橋先生の必死の声が、何度となく耳に入りましたね。「Nちゃん、なんでやる前から無理っていうの。何で簡単にあきらめるの！」

半年強かかって、彼女は変わってきたのです。

お母さんごめんなさいね。言っちゃいます。
実は保護者懇談会でNさんのお母さんと話をしていると、この「無理」と言う言葉がすぐに出るのです。私は言いました。「お母さんが無理だ、無理だと言ってたら、子供がやるわけがないでしょ。」彼女のお母さんだけではありません。今回を含め、過去に数多くの「無理です」という言葉を懇談の席で聞いています。

どうぞ普段の生活の中で、もう一度振り返ってみてください。何気ないちょっとした言葉で**子供のやる気を削いでいることはありませんか？**

子供はある意味で「親」である私たちの「鏡」なのかもしれません。

絶対に「無理」という言葉は口に出さないで下さい。

「〇〇ならデキルよ」と言って下さい。

何度でも繰り返し言い続けて下さい。

本気で言い続けて下さい。

絶対にあきらめないで下さい。



大切な子供たちの未来のために…。

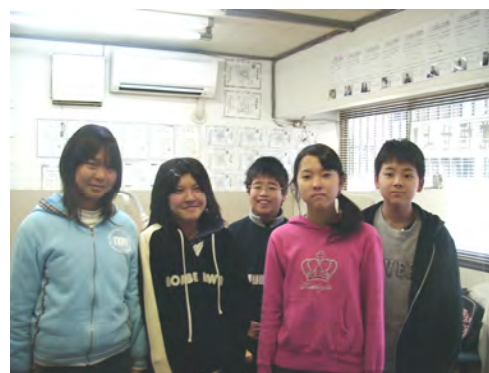
③冬期講習会

今年の冬期講習は、予告通りに今までになく宿題をドサッと出しました。しかし、みんなヒーヒー言いながらも頑張りましたね。

うれしかったのは新学期になって、アンケートをとったときのことでした。ほとんどの中学生が、えらかったけど頑張れてよかった！と言ってくれたことです。短い生徒で1日3時間、長い生徒で6～7時間かけて宿題を頑張ってやってくれました。



ひとつお詫びを。中1・2年生に前もってテキストを渡さなければいけなかったということ。かなりの負担をかけました。しかし私の失敗もみんなのパワーで吹き飛ばしてくれましたね！



ここで冬期講習中、1日平均5時間のがんばりを見せた岩野田中2年のGさんの感想文をどうぞ。

私は、冬期講習前はほとんど勉強していなくて、塾で立てた「一週間の学習計画」通りにはできない日が続いていました。

でも冬期講習では、一日五時間くらいは勉強しないと宿題が終わらなかったもので、終わるまで頑張りました。今までほとんど勉強していなかったもので、一日五時間の勉強は本当に疲れました。でも、講習期間中に毎日頑張れたことで、やれば必ずできるとわかったので、これからは計画通りにしっかりやって行きたいと思います。今年は3年生になり、受験まであと1年と少ししかないので、悔いのないように頑張りたいです。



冬期講習受講者には、お年玉として受験生には「合格米」、小学生～中1・2には特製カレンダーが渡されました。

実はこの講習期間前、教師が一人足りなくて困っていました。ふと頭に浮かんだのが、教室に貼ってある「個人得点Best3」で、日下部君に抜かれるまでトップだった4年前に卒業した織田君の顔でした。彼なら私の方針も



やり方も言わなくてもすべて知っている。すぐにでも生徒を教えることができる。そう思うや彼の家に電話して携帯番号を聞き、電話すると彼は快く引き受けてくれました。

彼は4年前に北高に進学しました。内申、学力とも岐阜高校に文句なく入れる実力でした。てっきり岐高を受験するものと思っていたら「僕は岐高に合格できると思うけど、岐高では上位にいられない。北高に行ってトップクラスにいたい」といって北高に進学したのです。言うことがカッコいいでしょう。

織田君にその後のことを聞きました。彼は自分が言った通り、3年生の前半まで5位以内をキープしていたそうです。後半にちょっと息切れしたそうですが。しかし昨年度は、薬学部が6年制になる前年で、最後の4年制の受験の年ということで、例年よりもはるかに難関だった金沢大学薬学部に見事合格したのです。しかも彼は3年間ずっと体育系の部活を続けていたからなおさら価値がありますよね。

自分は どうして その学校へ行くのか？ 己を知り、実行したすばらしい生徒です。

そういえば、その数年前にも栗田君という高校になって入塾した生徒が、全く同じ事を言っていました。彼も北高で10位以内をキープして見事現役で東北大(工) 早稲田(理工)に合格しました。彼の紹介で後に入塾した高校時代の同級生

M君（岐高生で栗田君より中学時代の成績は上位だった）は東工大、早稲田（理工）とも合格できなかったんですね。

学校の名前だけで、そこへ入ることだけが目的になってしまって、また入ることだけで疲れてしまい伸びきったバネのようになり、入学後ずるずると落ちていく生徒が少なくない現実、私は現在の進学塾の指導方法、親の考え方に疑問を持つことがあります。

では彼に塾の後輩である皆さんに、アドバイスを書いてもらいましたので紹介します。

皆さん冬期講習お疲れ様でした。久々にきてみた塾の中が、僕がいたときとまるで変わっていたのには驚きました。塾の名前が変わったのは、新聞のチラシで知っていましたが、すごく良い環境だと思いました。また先生一人に生徒が4人までと、昔よりパワーアップしていますね。こんな事言ったら塾長に叱られるかも知れませんが、本当に僕がいたときよりも、ずいぶんハードもソフトもよくなったと思います。

「塾の先輩として、思い出とアドバイスを」と塾長に言われてこれを書いているわけですが、アドバイスとしては、僕の記憶に残っている、しつこいくらい聞かされた（笑）塾長語録を紹介します。

「繰り返せ！繰り返せ！」「勉強は一人ですものだ」「質問が多いやつほど伸びる。何でも聞け！」「自分で考えて行動（勉強）しろ！」「自分の計画をたてろ！」「名東学院に無理という言葉はない」

行してみてください。

思い出としては、3年生の12月の土曜日のことでした。土日会員で午後から教室へ自習をしに行った時

次に思い出ですが、12月の土曜日のことだったと思います。土日会員で自習しに教室へいったときのことです。

その日僕は大阪の私立高校過去問題の理科の問題を解いていました。磁界の問題で、どう考えても僕の考える磁石の向きと解答が合わなかったのです。その時ちょうど塾長が教室の様子を見にきたので質問したのですが、塾長も僕と同じ答えになったのです。

その後30分くらい考えて、塾長は困った顔をして、答えがわからないことを僕に謝って、問題集の出版社にその場で電話をかけて聞いてくれたのです。しばらくしてその会社から返事が返ってきました。

な、なんと問題集に書いてあった答えが間違いで、僕と塾長の答えが合っていたのです。あのときのホッとしたような塾長の顔を、今でも覚えています。

僕にとって、自分のペースでやれるこの塾は3年間とても居心地がよかったです。皆さんも、どんなときでも「あわてず、あせらず、あきらめず」にマイペースで頑張ってください。きっと塾長をはじめ、先生方がしっかりサポートしてくれるはずですよ。

織田君、いや織田先生ありがとう。理科の問題の件は、私も鮮明に覚えています。何年か前に、その時ことを新聞の折り込みチラシに書いて

たことがあります。懐かしい思い出です。

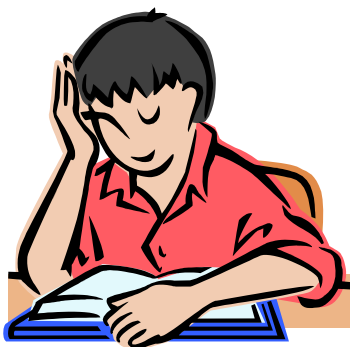


④学力テスト

先月14、15日に実施した学力テストが返ってきました。冬期講習の成果がある程度現れましたね。

成績がアップした生徒24人、ダウンした生徒9人、変わらず2人。ダウンした生徒の中で成績保障制度に該当した生徒が3人。この3人には2月中一ヶ月間、該当科目の無料補習に出てもらいます。過去の結果では、皆V字回復しています。しっかり頑張ってください。

今年頑張ったのが、中一のS君。5科目の偏差値が**38**（4月）→**42**（8月）→**53**（1月）とすばらしい伸びです。数学にいたっては、同じく**38**→**46**→**56**。気は優しくて力持ち、山口先生の豪腕マンツーマン指導もさることながら、何と言っても本人の頑張りです。数学の偏差値**38**からの船出は相当厳しかったはず。最初は何度も分からなくていやになったはず。問題を見たくもなかったでしょうね。しかしそこを歯を食いしばって乗り越えたS君の努力は、尊いものだと思います。



それとS君は検定試験によくチャレンジしています。春の数学検定で彼は一回失敗していますが、秋の検定では見事リベンジ。検定試験

に挑戦することが、彼の学習への意識を高めている要因の一つだと思います。実際彼との会話の中で、検定試験を意識した言葉がよく聞かれました。

もう一つ。彼の成績アップの陰には、検定受験を勧めるお母さんのバックアップがあったことは容易に想像がつかます。懇談の話の中でも、少しの時間を見つけては、自分ができる範囲の中で、できるだけ子供に関わろうとするお母さんの気持ちが私には強く感じられました。

実はS君のお母さんは、例の小冊子「ツキを呼ぶ魔法の言葉」を一等最初に申し込みしてくれたんですよね。読まれた方はご存知のようにきっとあの内容を実行しているんだと思います。みなさんはどうですか？



まだ手元に冊子がない方、よろしければ今すぐメールでお申し込みください！

当たり前のことですが、主役は子供たちです。決して塾が主役になってはいけません。親の想いが主役になってはいけません。家庭と教育の現場が共にしっかりと子供たちを見つめ、サポートする、最大限の相乗効果をあげる主役と脇役のトライアングルを作ることが肝要です。

そして私たち大人が、お腹をすかせた子供に渡すのは「魚」ではなく、「釣竿」でなければならないと、私は常に思っています。



親力診断テスト

前回の親力診断テストに関して2通のメールをいただきました。そのうちの1通を紹介します。

〇〇がお世話になっております。「銀色の道」いつも楽しみに読ませてもらっています。今回の親力診断テストですが、我が家はいつもTVをつけっぱなしで、会話がほとんどありませんでした。さっそくTVを消して食事をしてみました。最初はぎこちない雰囲気、子供からは「なんでTVけすの」とブーイング。それでも何か話しをしようと、学校のことなどを聞いているうちに少しずつ話ができるようになりました。今では〇〇につられてお兄ちゃんまで高校のことを話してくれるようになりました。中学時代から全く学校のことなどしゃべらなかったのに、びっくりです。夕食時の会話って本当に大切ですね。以前は学校から帰って、勉強をしない子供にイライラしてよく怒っていましたが、夕飯時に話をしないといけないのと、塾長からいただいた小冊子を読んだおかげで、怒ることも少なくなりました。不思議なもので、怒らなくなると、前よりは勉強するようになりました。とはいえまだまだ塾で作った計画通りには進んでないようです。でも少しでも進歩があれば、塾長の言われるように、それを認めて褒めてあげようと、努力しているつもりです。これからも「銀色の道」楽しみにしていますので頑張ってください。 追伸 今度下の子が中学に上がります。また宜しくお願いします。

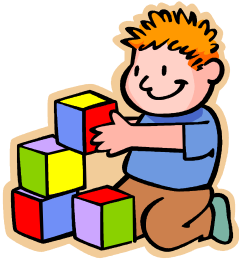
メールありがとうございました。このコーナーと小冊子、役に立ってうれしく思います。我が家も土日の私が一緒に夕飯を食べるときには、必ずTVを消して食事をしています。平日は食事時間が子供たち各自ばらばらで、事務長も塾に出ているので、どうやらTVはついてるようです…。でもやはり家族そろって、会話をしながらの食事は和みますね。これからもウンウンうなって悩みながら「銀色の道」の執筆頑張ります！ありがとうございました。

それでは今回のテスト開始！

問 題

わが子は整理整頓が苦手で、遊んだものをいつもそのままにしています。いくら言っても、なかなか片付けません。今日も大好きなブロックで友達と遊んだ後、そのままにして公園に行ってしまいました。もう、イライラの堪忍袋の緒が切れそうです。あなたの行動は以下のどれに近いですか？

- A 公園に行き、子供を連れ帰って片付けさせる
- B 公園に行き、ブロックの使用禁止を言う
- C 気分転換に買い物に行く
- D 気分転換に公園に行って一緒に遊ぶ



Aを選んだ人 △

これが冷静にできれば、親としてたいしたものです。でも、イライラして堪忍袋が切れそうな状態では、なかなか難しいのではないのでしょうか。つい怒ってしまったり「なんでそんなにだらしないの！」などと言ってはいけない事を言ってしまう可能性が高いと思います。冷静にできる自信があるなら、これでいいでしょう。でもその自信がないなら、やめておいた方がいいでしょう。

Bを選んだ人 ×

こういうことを言い渡す時というのは、かなり怒っているときです。というより、こういうことを言うときというのは、その行為によって、さらに怒りの感情が強くなってくるものなのです。子供の好きなブロックを禁止すると言ったときに、よく気をつけていると、自分が巧妙なやり方で、子供に復讐していることに気がつくはずで。

Cを選んだ人 ◎

イライラして堪忍袋が切れそうな時は、いったん冷静になることが何より大切です。その精神状態のままでは、怒りに任せた行動を取ることになるからです。そうすると、普段では考えられないような事をしてしまう可能性もあります。取り返しがつかないことをしてしまうこともありえます。そうならないために、何よりも大切なのは気分転換です。

Dを選んだ人 △

これが気分転換になる人はいいいでしょう。でも、こういう場合は一度子供と離れた方が上手くいくのではないのでしょうか。遊ぶつもりで公園

に行っても、子供の顔を見たら怒りがこみ上げてくるということも考えられますから。

★ポイント★

親子関係が崩れる最大の原因は、親の感情的な爆発です。怒りに任せた言葉が子供を深く傷つけます。怒りに任せた行動や暴力が、子供に生涯拭い去れないほどのトラウマを残します。

イライラしている時や、怒りが自分を支配しそうな時は、とにかく自分でそのことに気づくようにして下さい。そして冷静になることが大切です。気分転換を上手にしてください。深呼吸するのもいいですね。できたら一度子供と離れるといいと思います。

買い物でもいいし、散歩でもかまいません。好きなビデオを見たり音楽を聴くのもいいですね。何でもいいですから、とにかく親は自分の気分転換やストレス解消法を工夫して下さい。これが子育てをうまくやるために、絶対に必要です。なぜなら、子育てで一番の課題は、親の感情コントロールだからです。

今回の状況でも、いったん冷静になれば、それほど大した問題ではなかったと気づくはずです。

お
母
さ
ん
が
と
う



皆さんいかがだったでしょうか？
事務長にこの問題を出したところ
「答えは多分Dだと思うんだけど、私は絶対Aのタイプよね」
う〜む…うちの子に「ごめんなさい」です。おまけに正解まで違ってる！！

塾長の四方山話

①チラシ

毎年この時期、頭を悩ますのが新聞に入れる「チラシ」です。大手塾のようにその手のプロ（業者）に依頼して作成するわけでもないで、自分ですべて考えなくてははいけません。

私が名東学院岐阜として長良でスタートして1年くらいは、本部のチラシを使いました。しかし岐阜の長良の地で塾をやっているのに、南は九州から、北は関東までの共通の内容のチラシを入れることはいかがなものか？と自分独自のチラシを作って折り込むようになりました。いや、当時は自分で毎回ポスティングしていました。

雪の降る中かじかむ手に息を吹きかけながら、夏の炎天下のもとタオルを首にかけて事務長と二人で1軒1軒ポストに入れて廻りました。おかげで長良の地理にはめっぽう強くなりました。ですから入塾した生徒の住所を見れば、だいたい見当がつかます。

ここ5年くらいですかね、新聞に入れ始めたのは。

チラシの内容って何を考えて作ってると思いますか。

生徒に入ってもらえる内容？

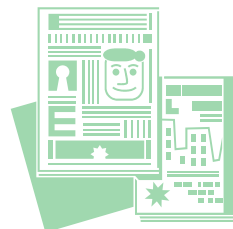
ある意味ではあっています。しかし私が意識するのは、塾生、塾生の保護者が見てどう思うか、半分はそれを意識します。懇談の席でチラシの内容について言ってお母さんがいるからです。こういうときはお褒めの言葉を頂戴できるのですが…。(ありがとうございます)

そういうお母さんにとっては、塾長の考え方がどうなのかが一番大切なのだそうです。

ある統計機関の発表では、塾に行って成績が上がる生徒—3分の1、横ばい—3分の1、下がる生徒—3分の1。この数字は知っている方も多いと思いますが、塾生が頑張ってくれるおかげで、うちの塾はこの点において、他の塾に胸を張れます。

話はそれましたが、業者が作った紙面ではなく、塾長本人の考えが読みたいとか。

そういわれると、ますます自分で必死になって考えなくてははいけません。今回もウンウン悩んでいます、言ってお母さん方の顔を思い浮かべながら頑張ります！



私が加盟しています「21世紀の教育を考える塾の会」の代表、森先生もチラシについて同じようなことを言っています。以下は森代表の昨年春の書面からの抜粋です。

チラシを作成する際には必ず自分で考えて作って下さい。紙面いっぱいになるべく多くのことを書いてください。気取る必要はまったくありません。普段思っていることを、自分の言葉で書くことが大切です。

先生方は教育のプロであっても、その道のプロではありませんから、見栄えのするカッコいいチラシを

作ろうなんて考える必要はありません。先生方が一生懸命になって書いた、いっぱい
の字を読んでくれるお母さん方から、そして先生方の方針に共鳴してくれるお母さん方から、連絡が必ず来るはずですよ。

チラシは白のコピー用紙で十分です。真剣に塾探しをしている方なら、どんな塾のチラシにも必ず目を通します。大手がやっていること、書いていることについてお母さん方はだいたい知っています。(成績のいい子だけを集めての実績競争)ですから地元密着型の中小の個別指導塾のチラシは、真剣に塾探しをしているお母さん方にこそ読んでもらえるはずなのです。だから紙面いっぱいに先生方の方針、考え方を書かなければいけないのです。

派手なカラーのチラシにお金をかけるのなら、内部の充実とか教師の給料を上げるほうに使ってください。

写真を使ったイメージチラシとか、派手なチラシで電話をくれるお母さんと、地味でも想いをいっぱい書き綴ったチラシを一字一句全部読んで、連絡をくれるお母さんとは、先生方にとってどちらのお母さんから電話をもらいたいのですか？もうわかりますね。それと字がいっぱい詰まったチラシを、最後まで読んでくれるお母さんの意識レベルは相当高いですよ。

さあ、頑張ってください。ただし、くだいようですが必ず先生方が自分で全部考えて下さい。

文章の上手い下手は関係ありません。自

分の言葉で書いて下さい。

そして先生方の考えにシンクロして集まってきた子供たちに、本物の教育をしてあげましょう。そして先生方は捨石になってください。私は弟子たちの功績によって名を残した吉田松陰を理想としています。いや、きっと名は残っていないが、多くの人物を育てた当時の教育者を尊敬しています。明治以降の日本の発展は、そうした名もない捨石たちの手によってなされたに違いないのです。

ただしここで言う「捨石」とは決して自己犠牲ではありません。

我良し、人良し、社会良し！
の精神を守り、伝えていくことです。
さあ、「新しい船」に乗りこんで、これからの日本を、先生方の地域を背負っていく子供たちを、しっかり育ててください！



森先生の言われるとおり、一字一句精読して、わたしのチラシの過去2、3年分の内容について言っておさる方もいました。

こうなると本当に塾長たるもの、確固たる理念を持って揺るぎのない方向性の指導をしなければなりません。私は自分の理念の上で、「変わる」「進化する」をテーマに毎年必ず新しい試みをしてきました。この10年間、前年と全

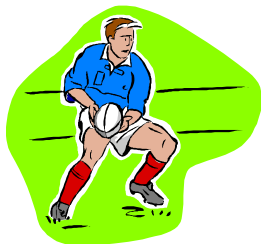
く同じという年は1度たりともありませんでした。この世の教育に「絶対」とか「完璧」はないと思います。それに1歩でも近づくべく、私なりに毎年挑戦し続けているつもりです。

…しかし、やっぱりチラシ作りは、頭が痛い…。

②ラグビー

銀色の道 vol.3 の生徒紹介の北川君のところでも書きましたが、私が一番好きなスポーツは、ラグビーです。ルールが難しいので日本ではあまりメジャーなスポーツではないようです。

しかし分かればこれほど奥が深く、面白いスポーツはないんじゃないかと、私は思っています。



今年も高校、大学、社会人と大会は終わり、あと日本選手権を残すのみとなりました。

人気のなさはTV放映でも分かります。私は高校ラグビーの夜のダイジェストを楽しみに見ていたのですが、2年くらい前からなくなりました。きっとスポンサーがつかなかったのでしょうね。ということは視聴率が悪い？

さて、今年は社会人、大学とも本命が順当に勝ちました。早稲田は強い！いや清宮監督はすごい！就任5年間で優勝3回、準優勝2回ですよ。彼は早稲田を見事に変えました。本当にすばらしい監督です。早稲田のフォワードが力勝負で明治のフォワードを圧倒するなんて、オールドファンには全く考えられないことです。タテの明治にヨコの早稲田、なんて言葉は過去の遺物と化しました。伝統は伝統として受け継ぎ、進化させる。勝負が決まった後も、絶対に手を抜かない。すばらしい監督です。

また5年の契約期間といえ、この絶頂期にスパッと引退です。あまりにかっこよすぎませんか？



高校ラグビーは、泣き虫先生で有名な、山口総監督率いる京都の伏見工業が優勝しました。TV番組「スクールウォーズ」のモデルにもなった高校です。今年の伏見工業はBシードで、準決、決勝とAシード校を破っての優勝でした。

実は昨年の伏見工業こそ、全国制覇を狙えるチームだったのです。しかし京都予選の決勝で敗れ、花園には出場できませんでした。



さてここからです。「敗因は技術や体力ではなかった。足りなかったのは精神力。」そして再出発に際し徹底したのがなんと、

遅刻厳禁 挨拶の徹底 ゴミ拾い

だそうです。そうしたところから自分たちを見つめなおし、新チームを一から作り直してきたそうです。う〜む、いかなる高度な「技」もやはり基本となる「心」なくてはなりたたない

のですね。それと「俺たちは強いんだ」という驕り、心の緩み、を捨てて「謙虚な気持ち」を「ひたむきな気持ち」を求めたのでしょうか。

普通なら、さらなる高度な練習、猛特訓に向かいそうなものですが、いや～驚きました。感心しました。しかし…生徒の皆さん

遅刻厳禁 挨拶の徹底 ゴミ拾い

どこかで聞いたことがありますか？遅刻はするな！挨拶しろよ！消しカスは捨てずに集めてゴミ箱に！そう、いつも言ってる私の言葉です。(笑)

ラグビーで忘れてはならないのが、大学ラグビー史上最強といわれる現在の早稲田を作った清宮監督をして、「春口監督率いる関東学院大学なくして、今の早稲田はない」と言わしめた春口監督です。9年連続決勝進出。早稲田も明治も同志社も絶対になしえない記録です。春口監督は化け物か？と思ってしまいます。



毎年メンバーが入れ替わる学生ラグビー。戦力を維持するのは非常に難しいと思います。ですから各有名校それぞれに黄金期が、そして低迷期がありました。それが9年連続ですよ！

監督は160cmそこそこしかありません。練習では、小さな監督が大きな選手見上げて叱り飛ばす、大きな選手は小さな監督をすぐ下に見

て小さくなってる。なんともいえない光景もあります。ま、これは余談ですが…。

春口監督は30年間関東学院の監督をやっています。初めのころは部員が足りずに試合すらできないこともあったそうです。また高校生の自宅にスカウトに行っても、今でこそ大学ラグビーの「カントー」で通りますが、「カントーガクイン？なにそれ？」といった状態で全く相手にされなかったそうです。それでもあきらめずにこつこつと部員を集め、その情熱と手腕で大学ラグビー史にその名と栄光が永久に残る部を作ったのです。口で言うのは簡単ですが、その苦労たるや想像に絶すると思います。

私は春口監督のことを思うとき、高校野球の徳島は池田高校元監督、故蔦文也氏が私だけに言ってくれた言葉を思い出します。

蔦監督は「阿波の攻めダルマ」と異名をとりましたが、それまでの甲子園の野球に革命を起こしました。ほとんどバントを使わずに、「サインは打て！」の豪快な強打で勝ち進みました。



鍛え上げられた選手の打球は他校を圧倒したものです。そして好投手、後の南海の畠山、巨人の水野と自慢の「やまびこ打線」で82年から83年には甲子園夏春連覇を成し遂げたのです。

それは83年2月のある夜のことでした。当時私は24歳のガッツサラリーマン。上司に連

れられて、気の置けないお客さんと大阪は北新地のラウンジで飲んでいました。すると数人の関係者に連れられた、蔦監督が入ってきたのです。向かいのボックス席で上機嫌に話をする監督。私はもう話がしたくてしたくてうずうずしていました。そうして意を決して「課長、ちょっと失礼して、向こうへ行ってきます」「？」

私は蔦監督の前に直立不動の姿勢で「監督、甲子園出場おめでとうございます！少しでもいいですか」一瞬キョトンとした監督。何か言おうとした関係者を手で制し「おう、何じやろう」「どうして池田高校は強いのか、教えてください」

なんと間抜けな質問でしょう。監督の指導と、それに応えた選手の頑張りに決まってるでしょ！

蔦監督は少考後、私にこのように答えてくれました。

今は確かに強いかもしれん。しかしワシの監督人生はずっと負けて負けて負け続けてきたもんじや。いつも1回戦や2回戦でコロコロ負けとった。徳島商業に勝って、子供たちを甲子園に連れて行きたいと思うてずっとやってきた。その負け続けた歴史のうえに今があるだけじゃよ。

私の間抜けな質問に対して、なんと含蓄のある答えでしょう。

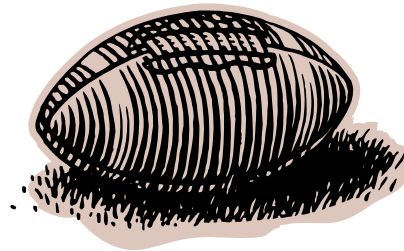
その栄光は長年の苦勞、甲子園初出場まで20年にも及ぶ負け続けた歴史の結果だったのです。負けても負けても「山あいの子供たちに、一度大海(甲子園)を見せてやりたい」(甲子園初出場時、インタビューに答えて) その思いでずっとあきらめずに努力し続けたのです。

春口監督も、国立競技場のフィールドに自分の教え子たちを立たせるまで20年間かかりました。

同じ気持ちで歯を食いしばって「選手たちに国立でプレーをさせたい！」と、どんなに負け続けても頑張ってきたんだと思うんですね。それで二人がオーバーラップしてしまうのです。

一口に20年といっても・・・生徒の皆さんが生きてきた時間よりはるかに長いのですよ。

20年間思い続けて頑張るって、気の遠くなるような話です。しかし人間、思い続けると、頑張りが続けると結果って必ずついてくるんですね。監督たちの20年の苦勞に比べれば、君たちの半年や1年なんて・・・ね、簡単でしょ！



写真の清宮監督の涙、山口総監督の涙、もちろん優勝の喜びもあるでしょうが、指導者のはしぐれの私には今その意味が分かります。

自分の下に集まってくれた子供たち、自分が指導してきた子供たちの努力が報われた、その子供たちの姿に喜び感動してあふれ出る涙なんですよ。

私も毎年高校の合格発表の日、同じような思いをさせてもらえます。朝一番から「塾長、合格したよ！」この電話がうれしくて塾をやってるようなものです。

やっぱり一生懸命頑張って、そして合格した生徒の電話には、その子の頑張りの姿が頭の中でフラッシュバックして、うれしくて涙があふれそうになります。さて今年は3月20日がその日です。

③初詣

1月7日、京都の北野天満宮に初詣に行きました。今回で10回目です。なんで京都まで？って、受験生のお守りを頂くためです。4年前までの中学校の社会科の教科書には、道真公の名前は載っていたのですが、例のゆとり教育という名の下、教科書がペラペラになったのとともに、その名を消しました。道真公は藤原氏の陰謀で京都から大宰府に流され、失意のうちに亡くなりました。その鎮魂のために作られたのが天満宮なのです。ですから日本で学問の神様「菅原道真」を祀った天満宮は数あれど、その双璧をなすのが京都の北野天満宮と福岡の大宰府天満宮なのです。

よって同じお守りを受験生にプレゼントするなら、よりご利益が期待できる???北野天満宮に行くわけなのです。



そして毎度毎度の「合格消しゴム」、今年から新登場「必勝カイロ」を翌週から受験生に配りました。これに冬期講習最終日に渡した大宰府の里の「合格米」。岐阜県の塾でこれ以上の受験グッズをプレゼントするところはないだろう、と私は胸を張っております?エッヘン。もちろん言うまでもなく大切なのは塾の指導

内容です。私立の入試も終わり、いよいよ最後の最後の追い込みにはいります。

みんな～ロケットダッシュで

走りぬけ～!

④立場逆転! 先生への問題

至誠館の火曜日、5時半からの小学生の部で今、ひそかに先生方の中で戦々恐々とした雰囲気漂っています。

それは3年生の末次志保ちゃんが授業の帰りに、メモ用紙を二つ折りにして、「いろいろきょうかしよ」の名のもと、先生方に問題を出すからなのです。これが難問、奇問続出で今週はどんな問題が出されるのだろう・・・と。このときばかりは先生、生徒の立場逆転です。



それでは1月24日の問題を紹介しましょう。解答は1/31が志保ちゃん風邪でお休みだったので、2/7の帰り際に急いで書いてもらいました。では皆さんも御一緒にどうぞ。

いろ(いろきょうかしよ
名起()

(ノートにやろ、?)

算数

①掛け算の筆算

126

×316

②花やさんで、バラを12本かいました。一本
50円です。全部でいくらでしょう。

国語

①好きな花を、かんじになおしてください。

②長いかみの毛 (漢字の読み)

今まではウォーミングアップです。さあ、
いいですか、これからが本番です！

理科

① ヒャクニチソウは何色だ？

② 光は何でできている？

社会

① バロー長良店の秘密を2つかいてね。

② 長良西小の下校時間は？

この難問に学志舎教師陣の意地とプライドを
かけて挑んだのが、火曜日の先生方、私以下、
鈴木、東島、山内先生の4人です。さてさて、
どんな結果が出たのでしょうか。

*採点基準はあくまでも、志保先生の模範解答に拠ります。

☆算数

①全員 (39, 816)

志保先生の模範解答

126

×316

756

366

4416

・結果—ぐっところえて全員討ち死に

*弘法も筆の誤り、志保先生、いつもなら難なくできる

問題なのに、帰る時間にあせったか？

担当の東島先生、複雑な表情…。

②全員 (600円)

志保先生の模範解答

(式 $50 \times 12 = 600$ 答え 600 円)

・結果—胸をなでおろし全員正解

*東島先生、安堵のため息、ホッとする

☆国語

①私 (紫陽花) 鈴木先生 (百合)

東島先生 (薔薇) 山内先生 (験の証拠)

志保先生の模範解答 (自分でかんがえろ)

・結果—きつとめでたく全員花まる？

*さすがの志保先生も、各自の好きな花まで分かりま

せんよね。先生方、問題の「好きな花」ではなく、

花の中で漢字を知ってるものを書いたようです。

②全員 (なが、け)

志保先生の模範解答 (なが、け)

・結果—恐る恐る全員正解

*何か落とし穴があるのでは？疑心暗鬼の先生方でした。

☆理科

①私（ピンク） 鈴木先生（白）

東島先生（見たことがないのでわからな

い） 山内先生（白—あてずっぽう）

志保先生の模範解答（きいろ、くろ、オレンジ）

・結果—全員涙を飲んで桜散る

*山内先生思わず「クロの花ってあるの？」…志保先生
が言うんだから、クロの百日草は存在するのです。

②私（粒子） 鈴木先生（粒子）

東島先生（？） 山内先生（粒子）

志保先生の模範解答（ガラスの中のせん）

・結果—唇かんで全員玉砕

*う〜む…志保先生、もしかして光ファイバーを
イメージしましたか？

☆社会

①全員（エッ？何？う〜ン…全然ワカラン）

志保先生の模範解答（ししよくを、みかんとか丸
ごと1コ出している）（一日ごとに8しゅるいは商
品がかわる）

・結果—全員バローへ勉強に行こう

*志保先生、あの大きな目でしっかり見てたんですね。

②私（3：40） 鈴木先生（3：30）

東島先生（3：30） 山内先生（4：10）

志保先生の模範解答（3時10分）

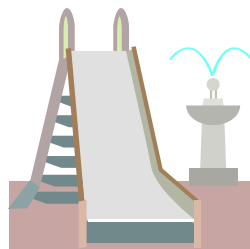
・結果—全員降参、まいりました。

*当たるも八卦、あたらぬも八卦…しかし一人くらい
はあたらんか？

総括 もうKO寸前、フラフラですう

〜！？

どうでしたか、皆さん？

バローの秘密には驚きました。1日に8種類の
商品が入れ替わってるなんて…恐るべき観察
力です、志保先生。試食のみかんは、来年ぜひみんなで食べに行
こうと話しました。しかし1こ丸ごととは
バローも太っ腹ですね？（笑）お母さんの情報によると、志保ちゃん、公園
で遊ぶのが大のお気に入り、学校から帰ると
かばんを放り投げ、毎日元気に公園めぐりをし
ているとか。夏には動物の風船をお供に従え、
暗くなるまで駆け回っていました。秘密の武勇
伝も聞きましたよ。本当に子どもらしい子ども、
誰からも愛されるキャラクターっていうので
しょうか…私は大好きです。

⑤研修会

先月の21日私は「21世紀の教育を考える塾
の会」関西支部の研修会で、京都の八幡に塾を
開いてる同志のSBI個別進学ゼミナールの

岡本先生の教室まで行きました。有名な岩清水
八幡宮の近くで、岡本先生は皆さんが使ってい

る「学舎カード」の生みの親なのです。
私は以前、大阪方面に行くのにいつも新幹線を使
っていました。ところが1回大阪からの帰りに、
新快速に乗ったことがあるのです。すると岐阜ま
で1時間半ちょいで返ってきました。時間もかわ
らず値段は半額以下。使わない手はありません。

今回も岐阜駅から快速、米原で乗り換え、京都
山科で下車・・・ここから京阪三条、八幡と京阪電車
だけでいけるのですが、私の珍しい物好き、好奇
心というのでしょうか、京都地下鉄東西線とい
うのに乗って京阪三条まで行くことにしたのです。
切符も2回買わなければならなくて面倒なので
がね。



東西線に乗って、電車が発車するときのことです。
何やら琴の音の音楽が流れてドアが閉まり、その
あとプルルルルーというおなじみの音で発車す
るではありませんか。なんとも京都らしい琴の音
なんですよ。これはいいぞ、観光客にも京都の
電車だ！と思ってもらえるなと思いました。帰っ
て京都市交通局に電話をして教えてもらいました。
聞いてみたい方はパソコンで以下をどうぞ。

ヤフーでまずは「京都市交通局」のホームペー
ジを探してください。

または<http://www.city.kyoto.jp/kotsu/>
ホームページの中央少し上に

地下鉄を利用する

という項目があり、項目の中の一番上に

・地下鉄時刻表を見る(ハイパー地下鉄ダイヤ)

というのがありますからクリックしてくださ
い。ハイパー地下鉄ダイヤの画面では左に

・地下鉄時刻表検索

という表があります。表の中の上から8番目

●地下鉄東西線発車楽曲

をクリックすればそこが最後の画面です。

楽曲データの、下線を引いた曲名をクリックす
れば聞けます。私が聞いたのはどうやら上から
2番目の「醍醐寺の鶯」というやつですね。確
か2回繰り返して流れていました。

さてさて、今回の研修会は昨年の京進の悲惨
な事件から、テーマが「教師育成」そして「さ
らなる自塾のレベルアップ」となりました。



うちの塾は教師のレベルアップのために、大き
な教師研修会が年3回、「私の方針」、「教育技
術研修」、「教師からの塾を良くする3つの提
案」で構成されます。約2時間の真剣な研修の
後はワイワイガヤガヤの懇親会です。

そしてだいたい2週間に一回の割合で授業
が終わった後に、担当教師の個人別ミーティ
ングをやり、各生徒の現状とこれからの方針を話
し合います。また各種検定試験の受験を義務付
けています。

実は本年度実施予定だった「生徒・保護者による教師採点」を昨年末に予定していましたが、ちょうど京進の事件があり、はたして実施してよいものか？教師のプレッシャーにならないか？という思いで、現在実施をためらっているところです。

他の同志の塾が何をやって成功しているのか？発表して、意見をもらい、また他塾の成功資料をもらうわけですが、今回もどっさりいただいて帰りました。渡して帰りました。来年度に向かってまた新たな試みを実施しますのでご期待ください！

⑥幻の1ページ目

今回も予定が1ヶ月遅れてしまいました。打てるときは3時間4時間一気に打てるのですが、打てないときパソコンの前に座っても、さっぱりキーボードの手が動きません。ですからこのvol.8も打ち始めてかなりの日数がかかっています。10ページくらいにして・・・と思っているのに、作り始めるとどうしても20ページを超えてしまう。何なんでしょうね。やはり間隔をあけるとこうなってしまう？

今回打ち始めたのが1月28日。しかし実は元旦に幻の1ページ目を作っていたのです。あまりにも日が経ったため、今回改めて最初から打ち始めたわけです。私のパソコンのDドライブの中の「銀色の道 vol.8」のフォルダーに01のファイルがひっそりと残っているのです。自分の作った文章は、子どものように可愛いものです。せっかく打ったのに、日の目を見ないのも可哀相なので、ここでちょいと貼付けますね。

みなさん、あけましておめでとうございます。今年はどうな年になるでしょうか。ぜひとも皆さんにとって、良い年になるように頑張ってください。今日は1月1日。今おせちを食べて、お屠蘇を飲んでちょいといい気分。教室に出てきてPCの前に座り、キーボードをたたいています。育真館は伊奈波神社から徒歩2～3分のところにあります。正月3日間だけ、この付近は歩行者天国になるのです。外を見ると、初詣の行き帰りの人が、大勢歩いています。入り口を開けると、屋台の出店のたこ焼きのいいにおい。



今年の9月16日で、私が学志舎の前身である名東学院岐阜を長良に開校して、10年の区切りの年になります。10年というと、まだまだ短い気がしますが、ある教材会社の営業マンとの昨年の話。「先生は、塾を初めて何年になりますか？」「9年ですかね」「え～、ずいぶん長いんですね」

9年で な・が・い？

わけを聞くと、彼が塾に電話をするに、毎年4分の1くらいの個人塾は姿を消しているそうです。しかしまた新たにその分増えて、数としてはあまり変わらないそうで、数年で姿を消す個人塾が多いそうです。

それを考えると、私は本当に幸せだと思います。

笑顔で塾にきてくれる生徒
保護者の方々の暖かいご支援
一生懸命頑張ってくれる教師
切磋琢磨しあう「21世紀の教育を考える塾の会」をはじめとする同志の先生方
そして支えてくれる家族

私の周りのみんなのおかげで、みんなの支えでここまでやってこれました。私一人ではなにもできません。紙面を借りて、あらためて

本当にありがとうございました。

これからも、全力で考え、

全力で実行します。

そして教師全員と一丸になって、

塾を変えます、進化させます。

どうぞ本年も宜しく願いいたします！

以上、幻ではなくなった？1ページ目でした。

編集後記

いよいよ終わりに近づいてきました。新しく入塾した生徒の塾生証を作るのに、写真をとってパソコンに入れて、パソコンの中のマイピクチャの中を覗いていたら「アッ…」忘れていました。

懇談会で5年生のK. Aさんのお母さんから「クリスマスのイルミネーションを飾っているので、一度見て下さい。」と言われ、見に行ったのですが、これがすごいなのって。ぶったまげました。思わず写真を撮りましたね。写真からは分かりにくいかもしれませんが、色とりどりで、めちゃくちゃきれいなんです。



写真ですから点灯しているように見えますが、イルミネーションが様々に点滅して、本当に beautiful! 小学生が終わって、中学生が始まるまでの30分の間に出かけていったのですが、思わず車から降りて、寒い中しばらく時間が経つのも忘れて見とれていました。

Kさんのようなお宅が隣にあったらクリスマス前は毎晩楽しめるのに。エッ、自分で飾りなさいって? う〜ん、クリスマスツリーでさえめんどくさくて、ここ2年は出してないんですよ…。

さて新年度の学志舎のキーワードは

トップレベルを目指す！です。

トップレベルというのは、クラスのトップとか、そういうものではありません。その個人の能力の限界を指します。つまり私がよく言うところの「自分の限界に挑戦しよう」「自分の持っている能力を100%発揮しよう」と言うことなのです。

もちろん今年度までの「変わる」「進化する」ということも継続していきます。

今年は新しいコースを2つ新設いたします。

いよいよ成果が顕著に現れてきた、速読・作文コース「ことばの泉」の中学生コースを新設いたします。

普通の生徒が読めるのは、一分間に 400～600 字とされています。東大、京大、早慶をはじめとする一流大学に合格する学生で分速 1500 字以上。昨年このコースを開講したときから受講している 6 年生の若山眞樹君は、1 年半で 1700 字を超えるようになりました。これからはもう少し精度を上げていきます。そしてこのコースの最終目標は、弁護士に現役で合格するレベル、分速 2000 字をはるかに超える**3000字**なのです。

先日、入塾してもらった小学生の二人のお母さんに、ためしに若山君が今読んでいる本を、彼が読んでいる 4 倍速のスピードで体験してもらったところ、間もなく「先生、今どこを読んでいるのか分かりません・・・」

ただ聞くだけの「速聴」ではありません。パソコンの画面でみるだけの「速読」でもありません。実際に**良書**を手にとり、自分の手でめくりながら、ヘッドフォンから流れる速度で追っていく、これが実践的で最も効果のある速読なのです。そして作文。普通の作文練習はほとんどしません。4 コマ漫画・想像作文などを使い、楽しく、高校レベルの小論文ならさっさと書けるレベル、頭の中のイメージを即座に文字に変換できるレベルを目指します。

この地区の塾ではどこもやっていない、(表向きは似たようなものがありますが) 学志舎独自の自信のスペシャル講座ともいえましょう。

速く読めるとどうなるのか、頭の中がどう変わるのか、小手先のテクニックではなく「頭を元から良くする」、「試験に勝つ」速読・作文の威力を次回特集します。ご期待ください。

現在の小・中の「マスターコース」を「伸学コース」に改名します。私の塾経営の基本方針であります「学力を伸ばす」ことを忠実に確実に実行するべく、そしてさらなる飛躍を願ひこの名前をつけました。

サプリームコースは今年もその名の通り、私立中学受験、難関高校・大学受験生を対象に、岐阜県下の最高頭脳であります、岐阜大学医学部の現役学生教師陣が徹底的に最高レベルのティーチング行います。

また新 5・6 年生を対象に「英駿コース」を新設します。これは本物の文武両道のエリート養成、少数精鋭選抜コースです。偏差値のみを追求する頭でっかちを作るつもりは毛頭ありません。心身ともにバランスの取れた子供の育成を目指します。特別イベントとして、自然と親しむ、歴史探訪他、将来を見据えて、成功者の様々な人生観を聞く「大人の講演」(ANA機長・会計士・病院院長・企業経営者など交渉中) 質疑応答などを予定しています。

岐阜を、日本を背負う子供を育てたい。

私の理想への新たな挑戦です。

学力低下が叫ばれ、公教育が迷走する

今こそ、魂の教育を！

今回も最後までお読みいただきまして、ありがとうございました。

塾長 山田勝登

突然ですが追伸です

昨日 2 月 11 日 (土) 18:00 より至誠館にて定例教師研修会を行いました。いつものように「私の所信、塾の基本方針」、「今月の貴方の人生への一言&教えのテクニック」各教師からの「塾を良くする 3 つの提案」それに対する私&他の教師の質疑応答。今回実施決定となった案件は 27 件中以下の通りです。

- ・ メッセージボードの徹底 (見てない生徒が多い)
- ・ 教師連絡帳の作成—生徒に関して授業カルテには書けない (生徒に見せられない) 内容の教師間の連絡用
- ・ 4 月より学志舎ブログ作成委員会を設置。更に年末までに HP に発展予定 (塾らしくないもの・生徒、保護者、教師全員参加型のたのしいものを作る)

顧問—塾長 委員長—山口先生

- ・ 遅刻厳禁の再徹底 (時間を守れないことは、ひいては将来その生徒の人生の信用にかかわる)
- ・ 宿題忘れにペナルティー・カードポイント減点 (当たり前のことを当たり前にする)
- ・ 授業開始前に 5 分くらいでできる、算数・数学の計算問題の実施
- ・ 授業開始前にその日何を学習するのかを、教師が指示するのではなく生徒自身に書かせる。(自分で考える、という観点より。できない生徒は教師が指導する)
- ・ 現行の中学生「単語テスト」を「本文の英作文テスト」に発展的解消

出席できなかった 3 名の教師からも追ってメールで提案が送られ、検討されます。

私の所信の中で昨年暮れの「京進」の悲惨な事件を受け「生徒・保護者による教師採点を実施することが、君たちのプレッシャーとならないか、危惧してためらっている」と述べたところ、石原先生から手があがり「**ぜひ実施して欲しい**」との要望が。私が冗談で「石原先生に苦情がど〜んときたらどうする?」「もし、そうなったときは仕方ありません。でも生徒が保護者が、僕をどう評価しているのか知りたいです。その上で直すべき点があれば直さないと、**生徒のためになりませんから。**」…アッ、私は絶句しました。

生徒のためになりませんから

何と浅はかな考えだったのでしょうか。私は何をためらっていたのでしょうか。他の教師からも次々と「塾長やって下さい! やりましょうよ!」の声。彼らの目は私に、貴方が育てた我々はそんなにやわじゃない、何を臆している塾長。自信を持って実施して下さい。万クレームがあっても、より良い塾作りへのありがたい助言でしょ! と訴えているようでした。全員一致で賛成。よって近々実施します。ご協力を宜しく御願い致します。

しかし、教師たちの言葉に私は感動しました。そして感謝です。ありがとう!

以下はへなちょこ塾長から、その塾長を支える頼もしい教師達へ、2 月の「貴方の人生への一言」です。

人(生徒)に影響を与え、より良い仕事(質の高い学習)をさせるたびに、その人(生徒)に得をさせているだけでなく、貴方自身の価値も高めている。

穴があったら入りたい気分の 塾長 山田勝登